

ぜんとやうやう

「2000 円札と言えば、なんだか変」
「わかった、2000 円よりも 20 円玉があれば自動販売機でちよっと楽だね」
「違う、源氏物語がメインにあしらわれるのが！」
「ははーん、光親子の会うシーンよりも光と誰ぞ女性との逢瀬の場面の方がより源氏物語だのになってとこだ」
「ま、確かにそれはそう言われればそうなんだけど…」
「でも、源氏物語が読めれば、もう古文なんて完璧なんですよ？ そういう最高峰な作品だからお札になるのもうなづけると思うんだけど」
「ん、まあ、源氏物語は文法的に高度に完成されているから、そう言われても仕方がない。しかし、それは日本の古典がそれだけ貧弱なものだと言っているようなものだ。たったひとつの作品でひとつの言語体系が収束するなんて、非常に悲しい」
「泣くう？」
「ああ泣いたって構わない。だが、そんなことでめめめそしては訳が余計わかんなくなってしまう。…………ハンカチを出すなっ！」
「え〜！ せつかく出したのにい…………。ううう、めめめめめそそ…」
「そらみろ、余計訳わかんなくなってきた」
「いいもん、自分で遣ったもんっ！」
「あ〜、わかんなくなってきたぞ」
「つまり、あんな源氏物語という文法的にも完成された大作をたったひとりで書き切れたものかどうかは疑問だ。だいたい紫式部って言っても彼女の手紙やなんやからから恐らく彼女が書いたものらしい、というだけのことで…………」
「また勉強してきたのか？ ときどき取り憑かれたようにそゆこと言うけど…………」
「な、なるべく科学的じゃない話を持っていこうとしているだけで、他意はないんだよ」
「なんか焦っているな」
「さあ…………。で、考えるに、作者が名をしっかりと残していないということは…………」
「遊びで書いてたんだな」
「…………たたくさんで書いたから名前書かなかったっていう…………」
「ほお」
「それに、文法的な誤りなんてのは長ければひとところやふたところ出るのにしっかりと…………」
「源氏物語は写して写してだから、そのうちに間違ったところは直されたんじゃないのかな」
「……………ううう」
「源氏物語は研究し尽くされているし」
「あーんなんていぢめるんだよおっ！ こーゆー考え方が悪いことはないでしょーっ!!」
「でもさあ、あんな好色な話が古典の最高峰に位置するなんてのが、好かん」
「つまり、源氏物語が嫌いな訳ね？」
「好かんだけ」
「……………でも、それほど近親婚激しい訳でもなく、よっぽどギリシヤ神話とかのほうが……………」
「昔はおおらかだったんじゃないの？」
「うん、そうだね……………じゃないでしょっ！ なんでこっちが納得しなくちゃいけないんだよ！ だったら嫌いじゃないでしょ？」
「そうだよ、好かんだけだと言っている」
「……………。じゃあどこが好かんのよっ！」

「平安の世と今とでは理解できかねるものもある」
「作品の時代に合わせて考えたら…………」
「だから、作品としては評価できるけど、もし仮に万が一自分が平安の世にいれば訳わかんなくなっちゃうって言いたいだけだ」
「なんなんよお、別にホモやらレズやらある訳でもないのに…………」
「同性愛はいつの時代にも存在するよ。もし源氏物語で描かれていけば、もっともって評価されるものだったろうね」
「ふーん、だったらなぜそーゆーの描かれていないの？」
「だいたい、突然変異みたいなものである一定確率で潜在同性愛者は生まれる。ただ、それが覚醒する機会を与えられないと、普通に恋愛して普通に結婚して普通に生活するだけのこと」
「だったら昔は覚醒されなかった…………」
「そう。人類にも種族存続本能がある。子孫を繁栄させるにはそんな非生産的な者ははいはいけない。ただ、潜在同性愛者はその本能が弱いから落ちていく。しかし周りからの働き掛け、即ち学習によってそのほとんどを形成されるのが人間。同性愛が禁忌される世においては同性愛者の存在は少なくなる」
「でもなんでそんな非生産的なものが現在ではある程度認められようとしているの？」
「密度が高まりすぎたからだろう」
「人が多すぎる訳」
「医学の進歩によって本来死んでしかるべき弱い者が生き永らえる世の中になった。しかも、男女の平衡が保たれなくなってきてしまった」
「ああ、女のほうが少ない」
「もともと、男のほう弱いから生後まもなく死亡する率が高く、出生の割合もその分多かった。だから昔は成人を迎える頃には男女のバランスはびったしだったのが、現在では人類の英知がひよわな男でも生き残らせてしまう」
「こうなると余った男はホモらなきゃなんない訳かあ…………。面白いね！」
「別に余ったのがホモになるんじゃなく、大量発生した人類を間引くために子孫が残らない恋愛の形態が準備され整備されていく」
「それも本能？」
「そう、ある種のネズミみたく増え過ぎたら全員で川やら海に身投げして数減らすというようなことを、最近では人間もあまりしなくなってきてしまった。だから同性愛が流行る」
「じゃあ近親婚は流行る？」
「難しいな。現在、近親以外の者が圧倒的に多いから、かつてのように同族の中から相手を選ぶ必要もなく、また本能が邪魔をする」
「じゃあど一すれば流行るようになるのかな？」
「流行らせたいの？ それともなんかたくらみごとでも？ ……ま、中世封建以前には近親子は多かったから、今頃になってその影響が現れる」
「どゆこと？」
「遺伝的に劣悪な部分が蓄積され、人類の種としての寿命が尽きる」
「未来暗いね」
「いや明るいよ、突発的な地球環境の変化が訪れた場合、案外生き残る人類っていうのは現在環境では弱い遺伝子を持った者かもしれない。弱い強いは見る位置を変えれば簡単に逆転する。ほら、突然変異っていうのはそういう環境変化に対処するべく自然界が持つ保険なんだから」
「むうう、恐るべし源氏物語、1000 年後にこんなことを導き出すとは」
「いや、それは違う、考えすぎ」

おしまい